

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600526
法人名	医療法人 ひまわり会
事業所名	グループホーム光 1階ユニット
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原1121番地
自己評価作成日	令和元年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和元年9月18日	評価結果確定日	令和2年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は川崎町の中心街に立地しており利用者様の買い物や外食等にはとても便利で外部との交流も図り易く、また、建物の裏側にはのどかな田園風景が広がり自然の中の散歩には最適な場所です。認知症介護に関しまして家庭的な暮らしの中で権利や尊厳が保障された生活とケアの継続、職員の質の向上・技術向上を常に目指し積極的に取り組んでいます。また、利用者様の重度化への対応は母体となる協力病院は隣接し、24時間対応で医療連携を図っています。平成30年10月から当施設にて看護職員を配置し早期対応により重度化予防に取り組み介護体制と医療ニーズに応えています。今後ますます高齢化が進んで来るなかで高齢者が社会から孤立することなく楽しく生活できるように施設がその役割を担う場になるよう社会貢献に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

GH光は、鉄骨造り2階建ての1、2階に2ユニットを有する事業所である。母体医療法人が運営する病院が併設され、職員はその利点を活かし、医療面を始め、勉強会や拘束廃止委員会活動、防災等を通して、平素から緊密な連携を図り、入居者一人ひとりの安心と安全の実現に努めている。本年度より、看護師を常勤配置し、口腔ケアや重度化についても積極的に取り組む姿勢が確認出来る。実際、「看取り」の経験も豊富である。また医療面の充実だけでなく、地域住民による様々な催し、入居者の要望に応じて実施する外出・外食先の多様性、障害者雇用の積極的継続等、当事業所の開かれた取り組みが確認できる。更に、ユニットごとに異なる献立で手作りの食事提供は、入居者のニーズに寄り添っていることの一例ともいえる。入居者一人ひとりの安心と快適を地域の中で、地域と共に追求することに余念がない、今後の展開が楽しみな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の方を対象とした小規模施設の運営を風通しの良いものにし、サービスの質の向上を図るとともに、地域における私どものサービスの役割、認知症の方への理解や支援のあり方を一緒に考えていくことを実践しています	設立時より、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を作成している。勉強会の度に職員間で確認し、共有を図るとともに、理念を反映させた年度毎の目標を作成し、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の障がい者支援事業所の訪問販売があり、入居者の方が品を選び購入したり、野菜や肉魚などの食材を配達してもらい交流している。運営推進会議を開催し、ご家族様や地域包括支援センター職員との交流もある	毎月の障害福祉事業所の訪問販売、保育園児訪問、地域住民が車イスダンスや三味線演奏、日本舞踊披露等で訪問する等、日頃から地域とのつながりが見られる。図書館利用や地域の文化祭への作品出展等、地域資源の活用も積極的に行い、開かれた事業所作りに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内に留まっており地域貢献に至っておらず、今後の課題。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所報告、意見交換など行い改善点や今後の取り組みに活かすことができるようにしている。また、光だよりを配布し日常の様子や行事に参加した様子などがわかるようにしている	入居者や家族、母体の医療法人職員、地域包括支援センター職員、地域住民等の参加で2ヶ月に1回開催。議事には防災等、時宜を得たテーマを取り上げ、忌憚のない意見の収集に努めている。議事録からは、入居者や運営状況の報告、意見交換の様子等が確認出来る。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター主催の研修会に参加するなどし、事例検討会や災害時の対応について等のテーマに取り組み資質の向上とネットワークづくりをしている	運営推進会議や包括支援センター主催の研修会を通じて、情報交換や相談等を行っている。平素から、顔の見える良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向け定期勉強会を開催し、人権が守られその人らしく生活ができるように研鑽している。拘束ではないかと疑問に感じることは、職員で意見を出し合い拘束をしないケアを心がけている。また、拘束廃止委員会を開催し意見交換し廃止に取り組んでいる	定期的な勉強会や委員会活動、研修等を通して、職員間で情報を共有しながら、身体拘束をしないケアの実践に努めている。職員は禁止の対象となる具体的な行為についても理解し、周知に努めている。現在対象者はいるものの解除に向けての取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主に内部勉強会で職員が資料づくりを行い、虐待、不適切ケアへの対策、背景となる要因を理解し安全で安心した暮らしができるよう職員間で意識づけをしている。外部より講師を招き講習する機会を持つようにしていく		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在これらの制度を利用している方はいないが、必要時に対応できるよう制度の理解をする機会を持ちたい	年間の研修計画に位置付け、制度の理解と周知に努めている。現在、制度利用者はいない。入居時に説明等は行っていないものの説明資料は完備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で説明し理解を得たうえで随時書面で同意をいただいている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を伺っている。GH全体でのことや個別での要望などあれば取り入れられるようにしている	運営推進会議や面会時を利用して、近況報告を行いながら、意見の収集を行っている。その際、一人ひとりが忌憚のない意見を述べやすい雰囲気作りに配慮している。実際、「献立表の掲示を大きくして欲しい」との要望を受け、対応していることが確認出来る。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に意見聴取の時間は設けていないが、職員個々の意見を尊重するよう努める	管理者、主任、法人事務長からなるリーダーミーティングを開催し、現場職員の意見を法人運営に反映するよう努めている。また普段の業務やミーティング、勉強会等を通して、各人の意見の収集に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に行っている自己評価や人事考課により処遇改善を行っている。また、子育て中による労働時間帯や曜日に配慮し希望に沿ったシフトを組んでいる		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	排除などの経緯はなく、採用後もスキルアップできる体制を整えている。経験や能力に応じた外部研修参加の機会を設けたり、得意とする分野が活かせる場となっている。	職員の採用にあたって、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。実際、障害者雇用についても積極的に取り組んでいる。採用後についても、職員一人ひとりの事情に応じた勤務体制の整備や、資格取得・研修受講についても可能な限りの配慮を行う等、働きやすい環境作りに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	接遇マナーの外部研修参加、内部研修を開催し尊厳について職員間で理解を深めケアに反映されるよう努めている。個別で研修報告を提出し改善点など抽出できるようにしている。	研修の今年度目標には「入居者の尊厳保持」や「その人らしく」、「地域の一員として当たり前で生活できるよう」の文言が明記され、実際の業務を通して、人権教育や啓発に努めていることが確認出来る。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けられる機会が多くあり、勤務体制調整しながら研修を受ける機会を確保している。また、伝達講習を行い全職員の質の向上できるようにしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催の研修会に参加することで、地域の同業者とのグループワークや意見交換で互いの質の向上に役立てている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	接遇マナーの勉強会で得られた知識を実践し、笑顔でコミュニケーションをとることを心掛けている。個別ケアに重点を置きつつ、個々と関わる時間を多く持つようにし、話しやすい環境づくりにしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントする際十分な時間を持ち、家族の思いをお聞きし良い関係性がつくれケアに繋がるようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先すべき事柄に対応できるよう配慮している。病院受診時同行してもらいたいとの希望が多い。柔軟に対応できるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭の延長であることを基本に、対等な立場であるべきとの考え方を共有することを念頭に置いている		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望をふまえ利用者様の望む暮らしができるよう関わりを持ち、コミュニケーションを大切にし良い関係性を気付けるよう心がけている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	踊りの師範をしていた利用者様のお弟子さんや、近所づきあいをしていた方、旧友など交流がある。友人と出かけたりすることもある。	旧友や知人の来訪を特別扱いするのではなく、日常の風景となるようさりげない配慮をもって対応しており、実際来訪者も多い。家族の協力や受診帰りの時間を活用しながら、行きつけの美容院を利用したり、馴染みの寺、勤務していた職場、自宅周辺に立ち寄る等を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	隣あう席で会話ができたり、気を使いあうなど互いを尊重し合う場面もみられる。レクリエーションで皆参加でき交流できるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様演奏による音楽教室開催など継続しており長きにわたり交流がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴を参考にここでどのように過ごしたいかなど言葉でお聞きし、今後のケアに繋がるようにしている。	入居時のアセスメントを始め、日々の記録、申し送り、ミーティング等を活用しながら、職員間で情報の共有を図りながら、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	入居者の生活歴について、アセスメントシートに記載はないものの、実際、職員が一人ひとりの生活歴を把握し、支援の参考にしてしていることは、ヒアリング等からも理解出来る。業務実態を記録に反映することと、職員間の情報共有の観点から、把握している生活歴の記録を期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	直近の情報提供での情報収集だけでなく、さかのぼって利用していた介護サービス事業所などに情報提供して頂けるよう働きかけている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々関わる中で個々がその人らしく暮らせるよう職員で情報を共有し過介護にならないようグループホームの特徴を活かせるようにしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題総括整理表を個別で作成し、PACDサイクルに応じより良い暮らしができるよう職員間のチームワークを強化し介護計画に反映させている。	本人・家族・必要な関係者の意見をもとに本人本位の計画を作成している。担当制で行うモニタリングや個別の課題総括整理表、日々の細やかな記録等を活用しながら現状に即した計画作成、及び見直しを行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の些細なことなど個人別介護記録や申し送り等で把握するよう努めている。毎朝1F2F職員合同の申し送りがあり各フロアの状況がわかるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の変化や状況に応じ本人又は家族を始め多種職での連携を図り対応できるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元農産物の配送があり、商品の確認作業など利用者さんと一緒に行えるよう取り組みを始めた。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は本人様または家族様の希望に添い納得のいくよう配慮している。長主病院とは24時間連携をとり、急変時など早急に対応できる体制にしている。	職員同行の受診支援を行う等、かかりつけ医を尊重しながら、隣接する母体医療機関とも日常的に連携を図り、本人・家族が安心して適切な医療が受けられるよう支援している。常勤看護師の配置もあり、更なる安心の担保が図られている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2019年4月より看護職員を配置し、看護業務の充実を図るとともに医療機関とのスムーズな連携ができるようにした。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	これまでも早期退院に向けソーシャルワーカーはじめ病院関係者との情報共有または相談を行うなどし、元の生活環境で暮らせるよう配慮している。生活機能が向上できるようPT,OTとも共働で支援に取り組んだ。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化または終末期のここでの方針をお話させていただき、書面をもって現時点での意向を把握するようにしている。また、家族間での方向性が示されるよう説明している。	入居時の説明に加え、必要な時機には、医師等関係者を交えた話し合いを行いながら、本人・家族と方針を共有している。「重度化」及び「看取り」に関して完備されている指針や事前の説明資料も詳しい。隣接する医療機関との密な連携の中、看取りの実績を重ねている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命訓練を行っている。AEDを使った講習会を開催し職員全体で対応の仕方を学んでいる。AEDはGH内に設置している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	H30年度包括支援センター主催の外部研修会に参加し災害時の対応について、実際に被災した施設管理者の体験談をもとに、今後の対策や対応について意見交換した。職員間では備蓄品の確保や連携体制を整えている。	隣接の母体医療機関と合同で年2回、夜間想定を含む訓練を実施。消防署に計画書、及び報告書の提出も行っている。防災設備業者の立会もある。訓練は時間をずらして実施し、医療機関と互いに観察し合うもので、より効果的なものとなっている。地域住民の参加には至っていない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の理解と介護、身体拘束と虐待、権利擁護の理解、接遇マナーについて勉強会を開催しコミュニケーションに反映できるようにしている。	勉強会の都度、日常常務の中での行為や言葉について、職員間で話し合いを行っている。特に排泄や入浴時の支援の中で留意している。また新聞購読や教会での礼拝の支援等、一人ひとりの習慣や信仰の尊重にも努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を基本とし、本人の意思で行動や参加できる問いかけをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまで生活してきた過程を尊重しつつ、自己の満足のいく豊かな暮らしが実現できるよう配慮している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい洋服選びから行って頂き、着用できるようにしている。美容室はそれぞれ行きつけの店へ行っている。毎日化粧をする方もおられる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬のものを取り入れ、利用者の好みに沿った料理をしている。外食に行くこともあり食べたい物を選べる支援をしている。	旬の食材を取り入れ、入居者の好みに応じた食事提供がなされていることは、ユニット毎に異なる献立からも確認出来る。入居者も包丁を握ったり、下膳やテーブル拭き等、出来る範囲で役割を担っている。個別対応の外食やイベント食の機会も多く、食が楽しみとなるよう取り組んでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	居室でも水分補給ができるようセットし水分量の把握を行っている。好みの飲み物やデザートは預かり管理し提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、必要物品（歯ブラシ、義歯洗浄剤、接着材、洗浄液など）の整備、歯科専門職の往診による口腔内の状態に応じた助言、指導を実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入院時や入居時にオムツだった方にトイレで排泄できるよう介助しながら、オムツをしないてよいようなケアに取り組んでいる。	排泄確認表をもとに、一人ひとりの習慣やパターンを把握し、基本日中はトイレ誘導を行う等、自立にむけた支援を行っている。基本動作等について、理学療法士の助言を得ている。オムツ外しの成功事例も多い。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事づくりと、適度な運動（ラジオ体操など）を行い日常生活の中で体を動かすことを意識している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番など希望に添うようにし、個人で好みのシャンプーを使用するなどしている。	1日おきの午前中入浴を実施。毎日沸かしており、一人ひとりの体調や希望に柔軟に応じることが出来る。1対1の対応で、会話を楽しみながら、要望に応じた時間でくつろぎ、楽しめるよう努めている。拒否される方についても、タイミングや言葉掛けを大切に柔軟な対応を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時ラジオを聴いたり、イヤホン使用しテレビを観たり、本を読むなどしており個人の習慣に応じて対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理、服薬の介助、確認を行いその後の経過について看護職員や医療機関との情報共有を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや行事をはじめ、得意だったハーモニカ演奏、日舞を披露したり、縫い物をしてもらうなどそれぞれできることを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車で目的地まで行き、屋外を歩いたり外食や演劇を観に行く等行っている。	その日の天候や、入居者の体調に合わせながら、日常的に近隣を散歩したり、買物、図書館に出掛ける機会を作っている。ドライブを兼ねて、季節の花見や道の駅、公園等に出掛けている。定期的に外食の機会も設けており、行先は多岐にわたる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問販売で購入したいものを自分で選べるよう、希望に応じ対応している。カタログを見ながら好きなデザインのシューズを選んでいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方や、季節ごとにハガキを作成し郵送している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには開放感のある窓で採光よく、各居室には窓があり外を眺められる創りになっている。冷暖房の完備と調節で快適な空間で過ごせるよう配慮している。	居間と食堂を兼ねるホールは採光良く明るい。壁面には入居者と職員共同の手作りの作品や、職員手作りの花言葉入りのイラスト等が各所に掲示され暮らしに彩りを与えている。ホールに面した台所からは調理の様子が伝わり、生活感もある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適宜席替えをしたり、希望に応じ好きなスペースで過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より自宅で使用していた家具や物品を持ち込み安心して過ごせる居室になるようにしている。	ベッドや洗面台が完備された居室には、使い慣れた調度品に加え、手作りカレンダーや、絵手紙、マリア像が見受けられ、一人ひとりの生活歴を尊重した本人本位の空間作りに努めている様子が確認出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく車椅子でもスムーズに移動できるスペースで自走出来たり、手摺りを使い安定した立ち上がりや立位ができるようになっている。		